

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

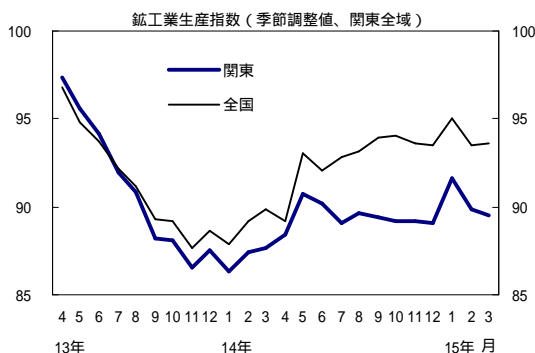
#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年2月)	今回(平成15年5月)	
景況判断	持ち直しの動きが緩やかになっている	持ち直しの動きが続いている	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	緩やかに減少	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

電気機械は、1、3月に新機種が出たこともあり、カメラ付き携帯電話が引き続き好調で、前期比で増加に転じている。化学は、アジア向け輸出が引き続き好調で、国内需要でも自動車向けが好調となり、堅調に推移している。一般機械は、1、3月に半導体製造装置などが好調であったため、前期比で増加に転じている。輸送機械は、国内需要では、新車投入効果による小型乗用車、10月からの排ガス規制による買い替え需要に対応してトラックが好調だが、これまで堅調に推移してきた米国向けの輸出が3月に減少に転じたため、前期比で減少となった。



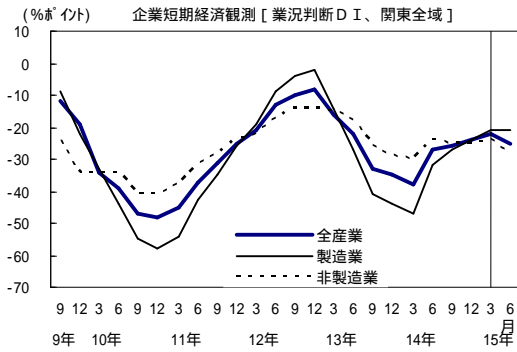
- (備考) 1. 平成15年3月の関東は速報値。  
2. 関東は平成7年基準(左目盛)、  
全国は平成12年基準(右目盛)。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

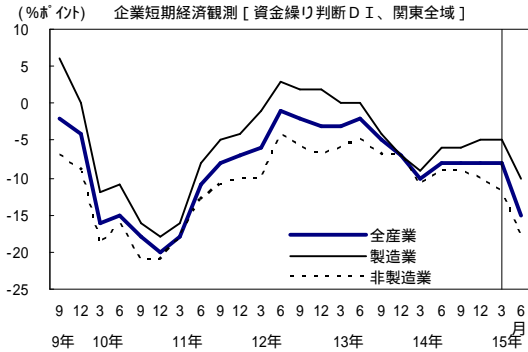
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	23.6	2.2	2.1	2.7	8.4
化学	13.2	0.9	1.3	2.5	1.8
一般機械	12.0	1.6	3.2	2.8	1.9
輸送機械	11.3	0.8	2.9	2.2	16.1
食料品・たばこ	5.8	0.1	3.4	2.5	0.9
鉱工業	100.0	0.2	1.2	1.1	2.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 1~3月期は速報値。  
3. 1~3月期の化学、食料品・たばこについては、1月、2月確報値の平均より算出。

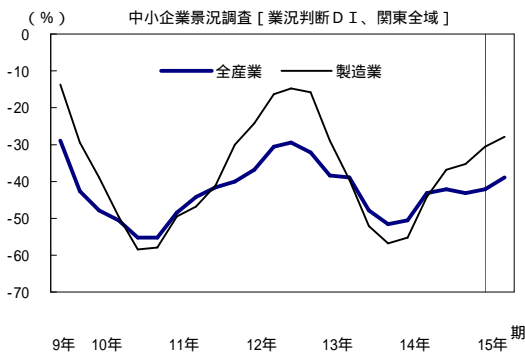
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。  
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

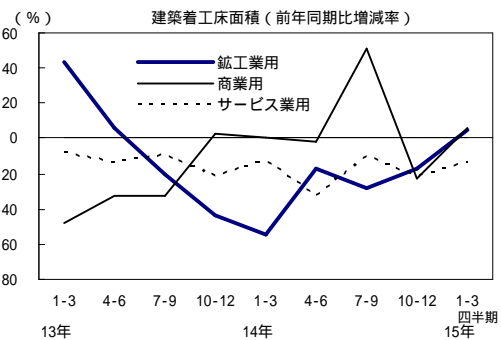
「特売やチラシで集客しても、客が買うのは目当ての商品だけで、他の物は買わない。全体的に売れない(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査、関東全域)]  
 (前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績見込み	15年度値
全産業	5.1( 1.2)	0.4
製造業	12.4( 2.0)	0.6
非製造業	4.2( 1.1)	0.5

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

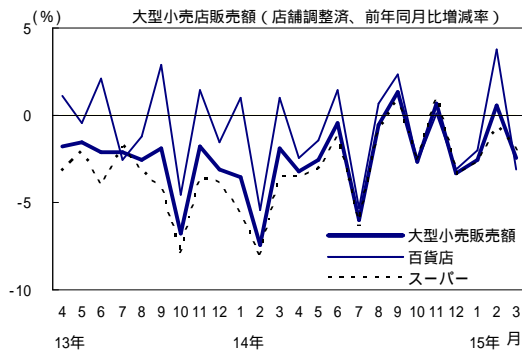
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

### 大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1月は、初売りやセール効果から衣料品などに動きがあったものの、後半は雪の影響で不調となり、引き続き好調だった身の回り品を除くすべての商品で前年を下回った。2月は、身の回り品が引き続き好調で、家庭用品、衣料品も前年を上回ったことから、3か月ぶりにプラスに転じた。3月は、肌寒い気候が続いたため、全般的に動きが鈍く、すべての商品で前年を下回り、再びマイナスに転じた。スーパーは、飲食品が健康食品を中心に1～3月期を通して引き続き好調だったが、衣料品、家庭用品などが不調で、全体では4か月連続で前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

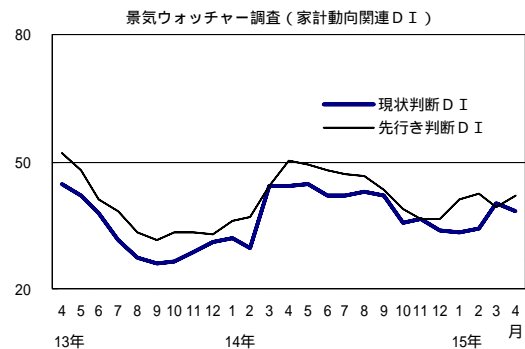
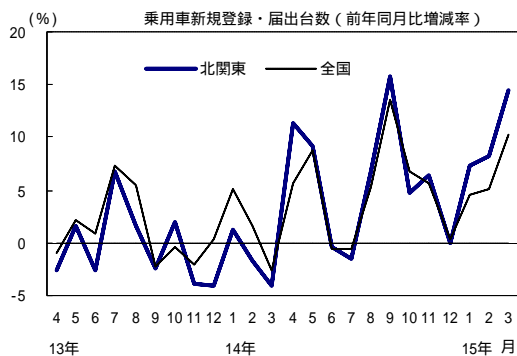
「3か月前から前年の売上をクリアしている。4月は気温が低いこともあり、24日までで2%下回っているが、月末に発泡酒増税による仮需要が見込まれることから、総じて変わらない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	2.1	2.0	1.9	1.6
百貨店	0.8	1.2	2.0	0.8
スーパー	2.7	2.3	1.8	1.9
乗用車	6.1	6.8	3.7	10.9
景気ウォッチャー	43.7	42.4	35.3	35.9

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

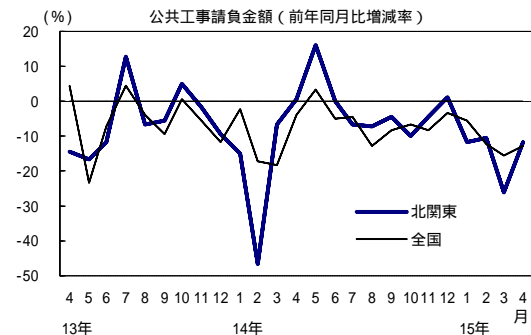
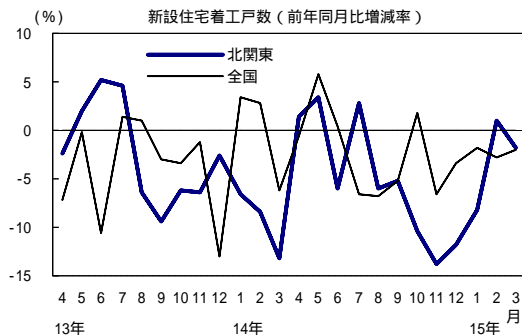
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家、貸家が前年を下回ったことから、全体でも緩やかに減少している。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

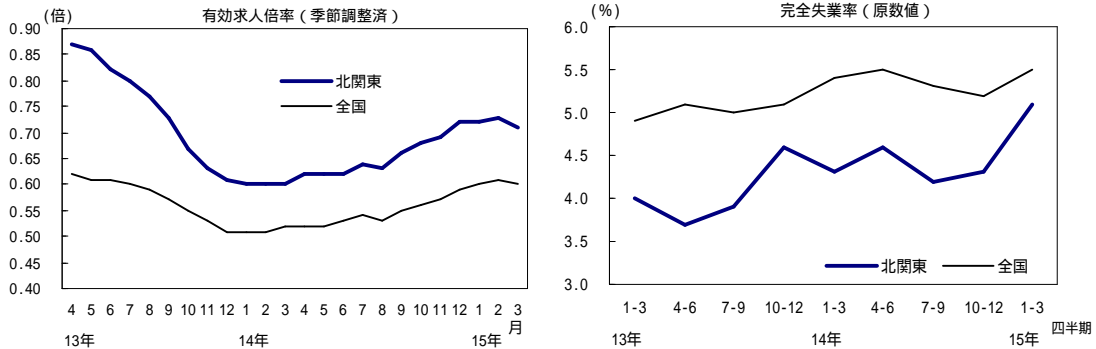


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「製造業の求人は、前月比、前年同月比ともに減少している。建設業、製造業、卸、小売など、小規模ながら幅広い分野で、事業廃止、リストラ等による企業整備が続いている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

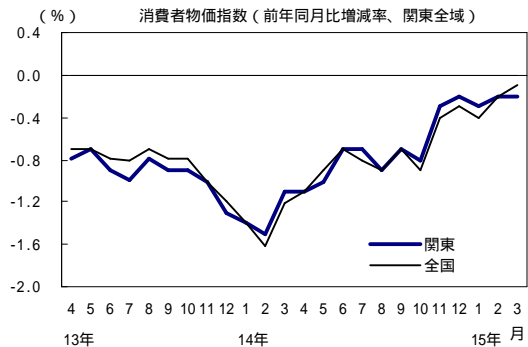
(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	249	246	238	231	86
(前年比)	5.0	1.7	20.4	8.7	8.5
負債総額	1,185	1,053	1,402	775	879
(前年比)	34.5	23.7	25.6	60.8	135.2



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・SARSの影響で海外旅行が減少しているにもかかわらず、宿泊予約は対前年比マイナスとなっている (観光型ホテル)

<先行き>

- ・5月はゴールデンウィークの海外旅行が減少した影響で、一時的に国内の消費が高まる可能性がある。2~3か月先は、中国の生産減少など、多方面にSARSの影響が出て、消費が冷え込む (百貨店)

